

集落ごとに自主防災組織を結成しましょう

自分たちの地域は自分たちで守るという「共助」の精神に基づき、地域の住民が自主的に結成する組織が「自主防災組織」です。

町では、防災活動を支援するため、資機材の整備に補助金を交付します。

■補助対象者

町内集落に結成された自主防災組織

■補助金額等

補助対象経費の3分の2以内限度額40万円

■補助対象品

ハンドマイク、警笛、防災被服等、ヘルメット、油圧ジャッキ、エンジンカッター、チェーンブロック、可搬ウインチ、発電機、投光機、担架、毛布、救護用テント、簡易トイレ、リヤカー、給水タンク、濾水機、浄水器 等

めちぜんレポート (南越前町地域おこし協力隊活動報告書)

隊員2号 荒木 幸子

活動理念

昨年9月、私は山奥の木造校舎でパンを焼き続けていました。オーナーが手作りの土釜にカンパーニュを次々と放り込み、傷んだ廊下を自分たちの手で張り直し、目の前の畑では仲間たちが小麦の束を抱えてせわしなく走り、夜には月明かりの中で野菜や豆の煮物をパンで掬って食べ、朝になれば澄んだ空気を裂いて「またイノシシにやられた！」という悲痛な報告が飛び込んでくる…そんな場所でひたすらパンを捏ねながら1週間を過ごしました。

そのNPO拠点には、都市での暮らしに疑問を感じ、地方で自分の仕事を確立しよう、世の中に対するアクションを起こしていこうという若者たちがひっきりなしに出入りしています。無賃での滞在を許されている彼らは、代わりに畑を手伝って木造校舎の暮らしを営みながら、それぞれの夢や野望のために淡々と活動を進めています。

当時、IT企業での企画の仕事がいよいよ楽しくなってきた一方で、うまくまわらないプロジェクトや社会動向に「何かが食い違っている」と感じていた私は、そのような7日間の経験と、オーナーや若者たちとの交流を経て、上司に辞表を出しました。地域おこし協力隊という選択肢を見つけ、その舞台として南越前町を見つけ、新しい文化や技術の象徴とも言える「旅人」が行き交ったという歴史に魅かれてこの町に飛び込みました。

日本の都市や地方のあちこちで、たくさんの若者が次の時代のライフスタイルを模索し始めています。私もその一人として自分自身を「実験台」に新しい暮らし方を模索しようとしています。

南越前町の皆さんと一緒に、パンを焼いたり床を張ったりしながら、私たちのこれからの「本当の幸せ」について考え、話し合い、形作っていきたくと思っています。

今庄宿プロジェクトについて

今庄宿の街道を活用するための中期計画策定に向け、6月から、住民代表者による部会での検討がはじまりました。全体会初回では、今庄宿の良いところ、悪いところ、これからのアイデアについてワークショップを行い、「住んでいる人の暮らしを大切にしよう」「空家、空き地を活かそう」といった意見が出ています。今後の部会では、具体的な施策への落とし込みをしていきます。

協力隊は、本プロジェクトを対象範囲内の活性化だけでなく、町全体の活性やまちづくりの気風を生み出すきっかけとして活かしていきたいと考えています。



▲廊下の張り直し



▲今庄宿プロジェクト全体会